

ストーマ脱出を保存的に防止する一対策

創傷管理チーム

○ 岡本 節 上地 美香 山口 ひろみ
野中 美穂 西山 利香 吉田 佐奈恵

【はじめに】

一時的回腸係蹄式ストーマを造設した患者が、退院後肛門側腸管よりストーマ脱出を起こし、ストーマの虚血とそれに伴う疼痛が生じ患者の日常生活に支障をきたすようになった。ストーマはまだ閉鎖時期ではなかったため、排泄口を妨げずストーマ脱出を起こさないような工夫が必要であった。私達は様々な素材やストーマ用具の利用等を検討後、歯科用パラフィンワックスを用いて防止用具を作成した。その結果、ストーマ脱出が防止でき、患者の日常生活を阻害していた因子は改善された。その経過を報告する。

【事例紹介】

52歳、男性、路線バスの運転手。平成16年6月腹腔鏡下低位前方切除術施行。術後経過中に腹膜炎を併発し、緊急で一時的回腸係蹄式ストーマを造設した。ストーマは6時方向のスキンレベルに口側腸管、0時方向に肛門側腸管があった。ストーマ脱出は、退院13日後に肛門側より発生した。患者は、用手還納を習得し日常生活を継続していたが、退院20日後より患者による還納不能と虚血を思わせるストーマ色調不良、疼痛が生じるようになった。

【方法】

作成した防止用具は、パラフィンワックス、蜜ロウなどの組成で、融点58度の高融点パラフィンである。熱めの湯で軟らかくし、患者のストーマと装具に合わせ成形した。装具は二品系装具を選択し、面板を装着した上から、排泄口を妨げないように成形した歯科用パラフィンワックスを置いて、粘着テープを貼った。その粘着テープはフランジ部分で挟み固定した。今回使用した脱出防止材料は約7gで、費用は約30円であった。

【結果】

現在、脱出防止日数31日。ストーマ脱出は歯科用パラフィンワックスを用いてから発生していない。このことにより、ストーマ脱出に伴う患者の苦痛は解消した。

【考察】

ストーマ脱出の保存的な対策は、腸管を損傷しない管理をすることが第一条件である。歯科用パラフィンワックスは熱めの湯で容易に形を変えられることから、患者の体型やストーマの形状に合った成形が可能であり、かつ表面を滑らかにできた。このためストーマを損傷することなく圧迫、固定ができたと考える。また、融点が58℃のため体温や入浴の温湯、排泄物で変形することがなく、形状が維持できるため再利用が可能であった。このことは、患者にとって取り扱いが簡便であったと思われる。更に、再生可能であることは、経済的負担も少ないと考える。今回の経験から、適切なストーマ管理を実践するためには、広い視野を持ち、想像力を生かし、患者にとって唯一の管理方法を探索することが重要と考える。

〔平成17年2月5日 第22回 日本ストーマリハビリテーション学会総会（高知）にて発表〕